



8月9日 長崎原爆の日

ちょうど80年前、私たちが住むこの長崎の地に落とされた原子爆弾。これにより、長崎のまちは言葉にできないほどの甚大な被害を受けました。そして、復興を目指し、歩み続けた長崎。このまちがどのような状況になったのか、どのような被害があったのか。私たちは、長崎に住む者として、多くのことを学んできました。

本校でも、平和学習を展開し、様々なことを学んできました。平和フィールドワーク、講師の先生方をお招きしての講演会や学習会、探究活動、被爆体験講話。一つ一つの学びを、これからどのように生かそうと思いますか？ 改めて今日、11時2分を迎えるにあたって、世界の現状に目を向けたり、これからの未来に思いをはせたり、日常生活について振り返ったり、様々な思いを巡らせたのではないかと思います。皆さんは、今日、どのようなことを思い、どのようなことを考えたのでしょうか？

長崎県中総体報告

7月22日から女子バレーボール部が、7月26日から陸上部と女子バスケットボール部が大会に臨みました。私も観戦に行きましたが、素晴らしい試合、レースで活躍してくれました。

選手の皆さん、そして熱心に応援してくれた部員の皆さん、保護者の皆さん、大変お疲れさまでした。一生懸命な姿がとても素晴らしかったです。

○女子バレーボール	1回戦 対桜が原中 1-2 (惜敗)
○女子バスケットボール	2回戦 対若松中 65-34 (勝利) 準々決勝 対波佐見中 62-43 (勝利)
	準決勝 対祇園中 52-72 (惜敗)
○陸 上	女子低学年80mH 第3位 男子共通3000m 第8位
	女子共通走高跳 第5位 女子2年4×100mR 第6位
	女子低学年4×100mR 第4位

8/3(日)オーケストラ部 第18回定期演奏会

この日の午後、市民会館でオーケストラ部の第18回定期演奏会が行われました。

入学式や大運動会等で素晴らしい演奏を披露してくれていますが、この日もオープニングの「舞踏会の美女」から始まり、すてきな音色が奏でられました。第Ⅰ部の後には諏訪管弦クラブの皆さんの演奏、そして、第Ⅱ部の後半では6名のダンサーも登場し、会場を沸かせていました。

本番を前に、日々熱心に練習を重ねてきたことと思います。そして、その成果もしっかりと発揮されていたと思います。

とても感動する時間をいただきました。

生徒の皆さん、先生方、応援してくださっている保護者の皆様方をはじめ、演奏会にかかわってくださった皆様方に改めて感謝申し上げます。



7/24(木)第75回社会を明るくする運動～中学・高校生弁論大会～

「社会を明るくする運動」は、犯罪・非行の防止と立ち直りの支援について理解を深め、明るい地域社会を築くための全国的な運動です。この日の午後、ブリックホールで標記の弁論大会が開催されました。長崎市・西彼杵郡の中・高生が参加し、本校からは3年生が「高齢者は『宝』だ」と題して発表を行いました。

皆さんは、高齢者と聞いてどのようなイメージを抱きますか？優しいおじいちゃん、おばあちゃん、人生の先輩でしょうか。しかし今、私たちの社会で、「高齢者による犯罪」の増加という、目を背けてはならない現実が起きています。警察庁の犯罪統計によると、高齢者による刑法犯の検挙人員は、2000年代以降、増加傾向が続いています。特に70歳以上の高齢者の増加が顕著です。この状況は、彼らの心に影を落とし、結果として犯罪へと追いやってしまうのです。これは、高齢者自身にとって不幸であるだけでなく、社会全体の治安をも左右する問題であり、私たち社会が作り出してしまった課題でもあるといえます。

もちろん、地域での見守り活動やサロン設置など、対策は行われています。しかし、本当に困っている方々に支援が届いていなかったり、一時的な見守りだけでは根本解決にはなっていない現状もあります。高齢者一人ひとりの心に寄り添い、彼らが再び社会と繋がり、輝ける場所を見つけられるような、より深い支援が必要です。

では、どうすればこの問題を解決し、「社会を明るくする」ことができるのでしょうか。私は、私たち中学生を含む「多世代が交流する共生社会の実現」こそが鍵だと考えます。具体的な提案が3つあります。

一つ目は、私たち若者が、地域での高齢者との交流に積極的に参加することです。地域の行事や清掃活動、高齢者施設でのボランティアに積極的に参加し、直接交流する機会を増やしましょう。こうした小さな関わりが、高齢者の方々の孤独を和らげ、笑顔を増やすことに繋がるはずです。

二つ目は、学校と地域が連携を強化し、多世代交流の場を日常的に設けることです。互いの世代を理解し、尊敬し合える関係が築かれることで、後継者の方々は生きがいを感じ、私たちも人生の知恵を学ぶ貴重な機会となります。

そして三つめは、社会全体で高齢者が「支えられる側」だけでなく、「支える側」として活躍できる場を増やすことです。長年の経験と知恵を持つ高齢者の方々は、社会にとって貴重な「宝」です。地域のボランティア活動のリーダーや、子どもたちへの読み聞かせ、特技を活かした講師役など、彼らが「必要とされている」と感じられる機会を増やすべきです。

高齢者の方々が生きがいを感じられる場が増えれば、それが孤独を解消し、ひいては犯罪を未然に防ぐことに繋がると信じています。高齢者犯罪は、社会のひずみが作り出した悲しい現実です。

しかし、この問題は、私たち一人ひとりの温かい心と行動で変えることができます。高齢者の方々が安心して暮らし、生きがいを感じられる社会は、私たち若者が将来高齢になった時にも、きっと温かく包み込んでくれるでしょう。

今こそ、世代を超えて手を取り合い、地域全体で温かい心を持つ社会を築きましょう。それが、高齢者犯罪を減らし、誰もが笑顔で暮らせる「明るい社会」へとつながる道だと、私は強く信じています。 ※一部省略しています。

7/19(木)伊良林校区まつり

夕方から伊良林校区まつりが開催されました。42回目を迎えるこのまつりは、地域の皆さんが時間をかけて準備を進め、例年大盛り上がりを見せています。

本校からも和太鼓部、3年生有志によるダンスチームが出演、そして放送部による進行や生徒会・美術部・PTAの出店等、多くの皆さんが参加しました。協力してくれた生徒の皆さん、先生方、PTAの役員さんをはじめ保護者の皆さん、暑い中大変お疲れ様でした。

ありがとうございました。。

